

『ダイ・ハード』

1988年／アメリカ／ジョン・マクティアナン監督作品

エンタメの頂点

会員 中村 睦 (75期)



ディズニープラスのスターで配信中
©2023 Twentieth Century Fox
Film Corporation. All Rights
Reserved.

皆様は最近日々の生活の中で、頭を空っぽにして楽しむ時間があるだろうか。

私は映画、特にアクション映画鑑賞が趣味である。一時期はTSUTAYAのアクションコーナーを見つくり、借りるものがなかったこともあった。今回はそのアクション映画の中でも、個人的に最高のエンタメと考える映画を取り上げようと思う。

その映画とは、『ダイ・ハード』（1988年）である。この映画は言わずと知れた名作ではあるが、念のためにストーリーを説明すると、クリスマスイブのロサンゼルス、ニューヨークから一人の刑事ジョン・マクレーンが、LAに転勤した別居中の妻ホリー、子供達のもとへやって来たところから物語が始まる。妻の勤め先を訪ねたマクレーンは、彼女が旧姓に戻っていることにショックを受けたあげく、運悪くテロリストの襲撃に遭遇してしまうが、人質となった妻を助けるため、たった一人で完全武装したテロリストに立ち向かうはめになるというものである。

この記事を書くにあたり、『ダイ・ハード』と、続編がコロナ禍の映画界を救った『トップガン』が思い浮かび、どちらを題材にするか非常に迷った。音楽や衣装などを考えたときの最高の映画はトップガンだと思っているが、最高のエンタメとしての映画はダイ・ハードであると思っており、両作品とも最高の映画だからである。

しかし、私はダイ・ハードを人生で20回は見ており、毎年のクリスマスはもちろん、気分を上げたい時など様々な時に様々な人と見てきたため、その時々自分の人生には必ずこの作品があり、自分の人生の思い出が

詰まっていること、ブルース・ウィリスが2022年に俳優を引退されたことからこの作品を選んだ。これほどまでに好きな理由は、前述のように最高のエンタメ作品であると考えているからである。

最高のエンタメ作品は何か、エンタメとは何か、人によって大きく異なる議題ではあるが、私の中のエンタメとは、何も考えず、知識や頭を使わず楽しめるものであると考えている。ダイ・ハードはまさに愛、友情、アクション、全ての映画を構成する要素が一切の迷いなく描かれている。テーマや事の善悪など面倒臭いものは存在しない。マクレーンが妻を助けようとしたとき、妻が名前を変えていたことを気にしていただろうか、マクレーンがテロリストと対峙したとき、テロリストにも正義があるかもと考えていただろうか、ただ妻を救うため、タンクトップで完全武装のテロリストと一人で対峙する痛快な男を見ていれば、画面の向こうでぽつと眺める私もただ何も考えず、楽しめるに決まっている。終わった後に考察を語り合う映画もよいが、視聴者が求める展開通りに物語が進んでいき、主人公が期待通りの活躍をする映画が嫌いな人はこの世にいないだろう。

これを読んでくださった皆様の中でも、最近楽しいことがない、悩み事が多いと思っている方であればもちろんのこと、そうでない方にも是非お勧めする。クリスマスに見るのが一番お勧めだが、一人で見るもよし、大切な人と見るもよし、ポップコーンとビール（又はコーラ）とダイ・ハードさえあれば、いつでも、誰とでも、日々を忘れ、濃密に詰まった頭を空にして最高に楽しめること間違いなしである。